

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

<ユニット3>

事業者名	社会福祉法人エムアール会 グループホームグリーンピア	評価実施年月日	平成20年5月12日
評価実施構成員氏名	小山田美穂 下澤和加子 太田 慎吾 富塚 麻喜 鎌倉 弘美 櫻井 怜子 宮下 和子 小泉 直子		
記録者氏名	小山田美穂	記録年月日	平成20年6月2日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「地域の中でお互いに協力し、支えあう暮らし」という事業所独自の理念があり、日々取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念はユニットに掲示すると共に、各自ネームの裏側に常に携帯し確認出来る様にしている。その理念の下、日々のケアについて職員間で話し合いを行ったり、管理者からもアドバイスを貰い取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	新しく入居される利用者様の家族様には、入居時に理念を渡し説明している。その他、運営推進会議を利用して、家族様や地域の方にも理念に基づいた取り組みの報告や説明をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方とは散歩や水まきの時に話す程度で、気軽に話したり付き合いが出来るまでには至ってない。	○ 日常的な挨拶から始め、気軽に話が出来る関係を築いて、行事やレクの際にはホームに寄って頂ける様な関係になりたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の夏祭りや近所の保育園の行事に参加し、地元の皆さんとの交流に努めている。	○ 夏祭りなどの行事にプリントにて参加を呼びかける。近くにあるコミュニティーセンターを利用する等して、もっと交流出来る機会を作る。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	役立つ事はないか話し合いを行っていないので、事業所として取り組みされていない。	○ 運営推進会議を利用して、今後は話し合いからでも取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価が何故必要か理解した上で自己評価に取り組んでいるし、取り組むことで現状を見つめ直す機会にもなり、次へ活かせるよう今後の取り組みに繋がっている。評価で助言された事も改善に向けて取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議にて自己評価や外部評価結果の報告、説明を行っている。その際に頂いた質問や意見はホームの取り組みに生かしている。3月に開催された会議では、会議前にホームの行事に参加して頂いて実際に取り組みを見て頂いている。</p>	<p>○ 今後もホームの活動をより理解して頂く為にも、行事等に参加して頂く。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>管理者が北区の管理者連絡会議に参加すると共に、分からない事があれば、その都度札幌市の担当職員と連絡を取っている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会を行い学ぶ機会は持っているが、それを熟知するまでには至っていない職員もいる。ユニットでは活用されている入居者様もいる。</p>	<p>○ 詳しく学べる機会を、もう一度持つ。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>新聞記事などが出る度に回覧し注意喚起したり、勉強会を行い防止に努めている。虐待にも幅広く種類がある為、自分では気付いていない行動が入居者様にとっては苦痛と感じて居る事があるかもしれないと思い、ケアの際には気を付けて行っている。</p>	<p>○ 虐待について詳しく学べる勉強会を設けたい。職員間で何でも言い合える隠し事のない人間関係を作り、オープンな状態に努めていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、解約時は管理者のみならず複数で時間をかけて説明し、十分な理解、納得を得ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常生活での不満や思いを訴えて来た時は話を聞き、他の職員とも情報を共有し、少しでも不満が解消できる様に取り組んでいる。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>面会時に家族連絡帳や口頭での生活ぶりや往診時の話など伝えている。又、病状の変化あった時は電話連絡している。年4回ある広報誌にも入居者様の暮らしぶりを担当職員からお手紙で知らせている。</p>	○	<p>家族様来訪時には、会話の機会をつくり上手に話せるようになりたい。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ホーム1階に意見箱を設置しており、家族様に意見など気軽に出して頂けるように取り組んでいる。外部者へ表せる機会としては、ホーム内に外部機関の窓口のポスターを掲示し案内している。</p>	○	<p>広報誌郵送時に返信はがきにて意見など記入して送って貰ってはどうか。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議や休み時間などを利用して、管理者やリーダーに意見等聞いて貰っている。運営者へは管理者から意見や要望を伝えて貰っている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者様に生活上に不便がない様に、常に状況に合わせて勤務が調整されている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職希望者との話し合いを設けたり、希望を出来るだけ聞き取っている。職員が変わる場合は新しい職員に入居者様の細かな情報を伝える事で、入居者様が変わりなく生活して頂ける様に配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人研修会や北区研修会に多くの職員が参加出来る様にされており、認知症ケア専門士の資格取得の機会を与えている。また、職場内に学習委員会があり、職員アンケートを基に専門の先生を依頼する等して、自発的に学ぶ機会を設けている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>北区連絡会主催の勉強会も行われている。近隣のG.Hの職員が集まり合同勉強会を開いている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員のストレス発散の為に、年に数回の懇親会を設けている。休憩所に喫煙所を設けたり、身体を休ませるマッサージチェアを設置している。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者からの報告で、勤務状況や実践内容を把握している。職員が意欲を持って働けるような言葉掛けを行ってくれている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談前に本人様の利用している他のサービス事業所からの情報を基に事前に面談を行うことで、要望を聞き取り、不安を取り去るような説明をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>見学の段階から、どのような理由で利用を希望されているか聞き、利用までの面談でも良く話を聞き取る機会を設けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様の状況を把握し、他のサービス等の情報を提供及び提案している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	状況により、入居を前提とした体験入居のみ行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	それぞれの力量に合わせて家事を一緒に行ったり、その中でどの様にすれば上手に出来るか教えて頂いたり、昔の出来事や物の話など聞かせて頂いている。職員が一方的に励ますのではなく、入居者様と励まし合いながら生活している。	○	中には出来ていない入居者様もいるので、全ての入居者様と出来る様に努力していきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族様と協力し合いながら、入居者さまがより良く生活して頂ける様に努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	それぞれに話を聞き良い関係が保てるように努めているが、全ての方へは支援しきれていない。	○	全ての入居者様と家族様がより良い関係を保てるように努力する。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	家族様以外の馴染みの関係となると、入居されてからホームでの生活の年数が増すごとに途切れてしまっている。外出の機会も少なく、馴染みの場所への外出も、家族様の自宅や墓参りとなっている。	○	墓参りも出来ていない方もいるので、家族様にもっと働きかけていく必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様間での関係の把握はだいぶ出来ているが、時々忘れていた事もある。入居者様同士としては、おやつを開けてあげたり、出来る方がお茶のコップを下膳してくれたり、さりげなく支え合いが行われている。	○	孤立してしまわない様、気を配り声掛けしていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現状として、退居後に関係を継続される事を希望される方がいない為、行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自ら意見を表せる方にはその都度話を聞き、出来るだけ意見に沿える様に話合っている。意見の表せない方からは、日々の話の中から掴み取ったり、表情や態度から感じ取り検討して取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報の他、入居後も会話の中から本人様の生活歴を聞き取り記録に残し、ケアに活用する為にも把握に努めている。	○	把握し切れていない部分もある為、これからも情報の収集は必要。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の過ごし方を個人記録に記し、睡眠状態や水分量、食事量、排泄などや観察からも変化を察知するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者様、家族様から話を聞き、会議にて職員からの意見、情報を聞いた上で作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	<p>入退院以外での状態の変化に合わせたプランの見直しの話し合いも必要。その為にも、変化しやすい方は設定期間を短くしたり、モニタリングをもっと活用出来る様にしたい。</p>
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	○	<p>より細かな情報も記録、申し送りし、職員間で情報共有していく。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	<p>より楽しんで生活して頂く為にも、他のボランティアの導入を検討していく。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	<p>今後、権利擁護等について相談していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携加算の体制が出来ており、常に看護師に相談し指示を仰ぐ事が出来ている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医の他に認知症に詳しい医師がおり、必要に応じて相談に乗って頂ける環境になっている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携の看護師がおり24時間対応体制が取れていて、適切な指導、援助が受けられる様になっている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>管理者は2週間をめぐりに病院に向き、家族様、医師、ケースワーカーと相談し、早期退院に向けて取り組んでいる。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化しそうな方はいるが、今後についてどうするかの話し合いは出来ていない。</p>	○	<p>今後、重度化しそうな方について話し合いが必要。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現在は重度化された方や終末期の方がいない為、取り組みが行われていない。</p>	○	<p>今後の変化に備え、話し合いや準備をする機会を持つ。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	今までに他の施設に移られた方に関しては、その後も変わらない生活が送れる様に細かな情報提供をさせて頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉掛けや対応については、十分に気を付けて行っている。記録等についても、個人情報なので取り扱いには気を付けている。	○	その日の様子や、状況に合わせての声掛けなど、もっと気をつけて対応する必要がある。(特に羞恥心に気を配り声掛けする。)
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	それぞれに合わせた声掛けを行うことで思いを出して頂いたり、自分で決めれる事は決めて貰う様、場面作りをしている。	○	より、自己決定の場面作りを行う。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来るだけ入居者様それぞれのペースに合わせて過ごして頂ける様に配慮しているが、入浴や外出、散歩など時間や職員の人数の関係で職員のペースになってしまう事がある。	○	話し合い、出来る事から工夫して、個々のペースに合わせた生活が送れる様にする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族様の希望もあり、全て本人様の望む様には出来ないが(お店の選択)、希望に合わせて理美容の利用を行っている。中には、本人様の希望で近所の美容室を利用されている方もいる。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材業者が入っているので、個々の好みに全て合わせる事は出来ないが、出来る範囲では行っている。(蕎麦が嫌いな方やパンが嫌いな方には別の物で提供など)。食事の準備、片付けは出来る事を、それぞれと一緒にさせて頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	病状的な事もあるので、把握しながら出来るだけ好みのものを楽しめるようにしている。	○	今以上に楽しめる場を設ける。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使いパターンを把握する事で、個々の時間を見て失敗のない様に声掛け誘導を行っているが、一部出来ていない方もいる。	○	全員が失敗のない様に排泄の誘導を行っていく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間や時間帯については制限されているが、出来るだけ本人様の希望を汲み取って入浴して頂いている。入浴順については職員が決めている事が多い。(出来るだけみなさんが1番に入浴出来る機会を作っている。)	○	可能な限り、本人様の希望を(順番についても)取り入れていく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は本人様の意思やその日の状態に合わせて、休みたい時に休んで頂ける様にしている。夜間は、安心して休んで頂ける様に話を聞いたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	全ての入居者様ではないが、家事や洗濯などで役割を持って頂いている。レクや散歩など気晴らしとなる様に取り組んでいる。	○	役割や楽しみがないと言う声も聞かれているので、その方の希望を聞いて楽しみを増やす。外出や散歩に出かける機会を増やす。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族様の考えもあり持っていない方もいるが、小銭でも持つことで安心される方もいるので、家族様に協力して頂き持って貰っている。しかし、中々使う機会は少ない。	○	買物で使う機会をつくる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	夏場は散歩や庭の畑など外へ出る機会が多いが、買物や他の時間のかかる場所へは行けておらず、冬場は特に外出の機会が殆どない。	○	希望も踏まえて、工夫し、家族様にも協力して頂いて外出の機会を増やす。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事での買物や花見などには行けているが、個別に希望に合わせた外出は出来ていない。	○	意見が出たときは話し合い、行く機会を増やす。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は希望があればかけられる様になっているが、職員側から声掛けは行っていない。手紙に関しては、返事を出している方もいるが、殆どの方は行っていない。	○	手紙に関して、字の書ける方には場面を作り、手紙を書いて貰う。(お礼の手紙や、季節の挨拶など)
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間が決まっていないので、家族様の都合の良い時間に気軽に立ち寄って頂ける様になっている。来訪された時には居心地良く過ごして頂けるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わない様に気をつけてケアを行っているが、相手にとっては苦痛となる事もあると思うので、より注意しながら接する必要がある。	○	何処から何処までが身体拘束になるのか、詳しく勉強する場を設ける。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホーム前の通りはスピードのあるトラックが通ったりと危険な事もあり、家族様に了解を得た上でホームの玄関には施錠を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は3人体制で必ず見守り出来る位置に職員がおり、フロアを離れる時も声を掛け合っている。夜間は1名になるが、常にフロア全体が見える位置にて見守りを行っている。	○	記録中でも見守りしている事を忘れない事。少しでもフロアを離れる際には必ず声を掛けあう事の徹底。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な刃物や薬品類については鍵のかかる場所で保管している。ホームの決まり事として、先の尖ったはさみや刃物は持ち込み出来ない事になっているので、持ち込まれた場合は家族様に返品するか、鍵のかかる場所で預かり、使用することに出している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎年学習会で学んでいる。明らかに事故が予測される方には対応策はあるが、全ての入居者様についての取り組みはされていない。	○	入居者様個々の状態を把握し予防対策に取り組む。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	毎年学習会で学んでいるが、個々に差があり、全ての職員が対応出来る様に取り組む必要がある。	○	常に研修を行い、職員の対応にレベルの差がない様に取り組む。急変時の動きのシュミレーションと実技を行う。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	訓練は行っているが、地域の方との交流がないので協力を得られるような働きかけは行っていない。近くに母体施設があるので、緊急時は応援に来てくれる体制にはなっている。	○	災害、避難訓練についてのマニュアルをユニットに設置する。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	明らかに、今起こりえる方については話をしているが、全ての入居者様に関しては行っていない。	○	個々に起こりえるリスクを把握して、家族様と話をしておく必要がある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	表情や全身状態を観察し変化時はバイタル測定をし、勤務者、看護師、管理者に報告し早めの対応が出来る様にしている。情報を申し送る事で継続して観察し対応出来る様に取り組んでいる。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	用法、用量、副作用と全入居者様の内容をスタッフが把握しきれていない。	○	職員が副作用等を把握出来る様に工夫する必要がある。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	水分量の調整や身体を動かす事で便秘対策に取り組んでいる。	○	便秘後に水分を増やすのではなく、日頃から水分を多く摂取する様に働きかける必要がある。便秘時の腹部マッサージなどの学習も必要。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	全ての入居者様には対応し切れていない。拒否の強い方もいるので、家族様にも協力して頂いて、うがいからでも出来る様に取り組んでいる。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量、食事量は毎日温度板に記録する事で把握している。状態に合わせてお粥やミキサー食の提供をしたり、量に偏りのある方は好みのものを把握し多めに盛り付けるなどしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、それぞれに沿って対応している。職員は年中、外からユニットに入る時は、うがい手洗いをやっている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具に関しては決められた通りに消毒し、食材に関しては、その日のものは、その日の内に使い切るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	正面入り口には花壇があり花を植え、玄関周りにはプランターや小物を置いて家庭的な入りやすい雰囲気作りを行っている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地良く過ごせる様に、光や音の調節を行い、フロアの飾りも季節ごとに楽しめるように工夫して飾っている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間の他に、畳の小上がりや食堂と少人数や一人で過ごせる居場所作りをしている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人の使い慣れた家具や小物を持ち込んで頂いて、居心地の良い安心できる部屋作りを行っている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日空気の入替えを行い、温度や湿度に気を配り、湿度が低い時には濡れタオルをフロアに干すなどして対応している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要な場所に手すりが設置してあり、居室内の床もクッションフロアになっているが、家具の配置に工夫が必要な部屋もある。	○ 安全に過ごせる様に、家具の配置を家族様にも相談し工夫する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室には表札をつけたり、トイレには分かり易いように表示したり工夫している。混乱しないように、わかり易いような言葉掛けをして安心して過ごせる様に取り組んでいる。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダには洗濯物を干したり、外回りには花壇や畑があり、その前がお散歩出来る様になっており、活用している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	③
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	④

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ③
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

- 運営理念の下、出来るだけ家庭的な環境を提供し、利用者の皆様が毎日少しでも多くの笑顔を持って、安心して生活出来る様心がけています。
- ホーム及び各居室は広く、明るく、スプリンクラーの設置など安全に配慮し、エレベーターも設置し、ホーム前には8台～10台の車両が駐車出来るスペースを確保し、夏はこの場所を利用してバーベキューや花火大会を開催しています。日々の生活の中で、自分の持てる力、出来る事を発揮し、地域の中で継続して生活して頂ける様支援していきます。
- 全職員は、独自の委員会を通じて、利用者のより良いサービスに努めています。レク委員会は、毎月の行事を定め家族に参加して頂く機会を増やす等、コミュニケーションを図れる様にしています。広報委員会では、広報誌「笑顔」を通じ生活状況を知らせています。学習委員会では、利用者の介護をより良いものにする為、技術や知識の向上に取り組んでいます。